

第83回

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらおうこのコーナー。前回のスゴイ人、新西美智子さんにご紹介いただいたこの方は「**幼児教育だけでなく多方面に渡って活動されているスゴイ人**」とのこと。また第35回で紹介した千切り絵作家丸田ちひろさんのお父さんです。

【今回のスゴイ人】

太陽の子幼児園 園長

まる た み ず ほ

丸田瑞穂さん



今回は、大隅町にお住まいで太陽の子幼児園の園長をされている丸田瑞穂さんに話を伺ってきました。

丸田さんは高校まで大隅町で過ごし、都会に憧れて東京都で銀行に就職。4年ほど働いたあと母の看病のために帰郷。その後は県内のスイミングスクールに就職しました。インストラクターの資格は就職してから取得しました。

「父と兄が幼児園の経営をしていたのでスイミングスクールは3年のつもりだったけど、楽しくて10年間勤務しました」

スイミングスクールを退職してからは幼児園で働きながら社会福祉主事の資格を取得。平成14年に太陽の子幼児園の園長になりました。銀行では経理のこと。スイミングスクールではサービスマスターの心構えやお客様との接し方を学んだそう。

「それぞれの仕事で身に付けたことが幼児園での仕事にも活かされているので、どんなことにも無駄なことはないと思っています」

誘われたことはやってみる、知らないことは勉強してみたいという考えの丸田さん。現在は曾於地区バレー

ボール協会の会長。また過去には曾於市青年育成指導員をするなど様々な経験をされています。

「子どもには一人の人格者として接しています。合奏・劇・太鼓・伝統芸能などの高度なことも、できるかもしれないと思って与えてあげています」

子どもの可能性を信じて仕事をしているそう。

またものごとを「作り上げること」が好きという「丸田さん」。保育士の仕事の魅力は子どもと一緒に何かを作り上げることだそう。

「子どもが目標を達成して喜んでいる姿をみることがやりがいです」
子どもには夢を持ってほしい。途中で変わってもいいから夢をずっと持ち続けてほしいと話します。

幼児園では「まわりの人に感謝することを忘れないで」と伝えている丸田さん。

「自分ひとりでは生きていけない。まわりの人達に支えられて生きています」

これからはまわりの人に還元できる何かをしたい。自分にできることは何でもしたいと話してくれました。